

防潮堤



模型を見ながら県の説明を受ける唐桑町鮪立地区住民

漁業集落
意見交換

是非含めて協議継続

鮪立て反発相次ぐ

気仙沼市内の漁業集落整備に向けた地区意見交換会が4日、唐桑町鮪立て地区を対象に開かれ、県市の提案をもとに防潮堤整備と漁業集落防災機能強化事業（漁集事業）について予定されている海拔9・9㍍の防潮堤については、住民から反発の声が上がり、建設の是非を含めてさらに住民と協議を重ねていくこととした。

鮪立て漁港については当初、港に沿って海を取り囲む直立型の防潮

堤が検討されたが、この日は、背後の土地利用や再建した住居を防護する観点から内陸側にやや引く形での整備を県が提案した。幅約30㍍にわたって前後に傾斜をつける部分と、地形的な理由から直立型とする部分を組み合わせるもので、長さは計約500㍍に及ぶ。

防潮堤の内側には漁集事業を活用した集落道路、前後に漁具倉庫などの水産用地も確保するという。

しかし、住民からは「防潮堤をつくること

は決まっているのか」は建設する方針」といざとなればすぐ逃げられる。防潮堤をつくる前に避難の仕方を工夫するような方法は考えられないか」などと防潮堤整備に疑問の意見が続出。建設の是非について地域内での議論不足を指摘する声もあった。

話し合いは平行線をたどり、県は「防潮堤を建設すること」は建設する方針」としながらも、地域の賛否を含め防潮堤に特化した話し合いの場を、市、地元漁協を交えて設けることを提案。住民側もこれを受け入れた。

漁集事業を活用した避難道整備については、道の数や幅などさらにも充実を求める声が出た。